

事業所名		カラカラ西宮甲子園				支援プログラム（保育所等訪問支援）		作成日	令和6年	12月	18日	
法人（事業所）理念		『ケセラセラ』～人生は自分次第でどうにでもしていける～ 未来の花を咲かせる種を大切に育み、子どもたちの成長に真摯に向き合い、早期療育に情熱を注ぎます。 保護者と共に歩み、信頼と共感に基づくパートナーシップを築きます。 療育は一人ひとりに合わせ、オーダーメイドで、着実な成長をサポートします。 共に未来に向けてゆっくりと歩み、個々のすばらしさを引き出すことを大切にします。										
支援方針		未来に花咲く総合療育プログラム 10 ①カスタムプログラム ②マンツーマン支援 ③総合的アプローチ ④認知学習の促進 ⑤運動能力の促進 ⑥ICT療育（IT＋コミュニケーション）⑦非認知能力の向上 ⑧専門的な経験を積んだ指導員による個別、集団療育 ⑨保護者の主体的な参加 ⑩家族との連携										
営業時間		9	時	45	分から	18	時	00	分まで	送迎実施の有無		あり なし
		支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	子どもの健康状態や生活リズム、食事・排泄・衣服の着脱など日常生活の様子について、園や学校での観察と担当職員からの聞き取りを通じて把握します。本人に無理のないペースで生活に適應できるよう、必要に応じて環境の調整や関わり方について助言・提案を行います。家庭との情報共有の在り方についても共に検討します。										
	運動・感覚	子どもの粗大運動・微細運動の発達状況や、感覚への反応（敏感・鈍感など）を確認し、活動の中で見られる特徴について聞き取ります。その子にとって快適で安心できる環境を整えるために、活動や休息の工夫、刺激への配慮など、日常生活の中に取り入れやすい方法を提案します。										
	認知・行動	指示の理解、見通しの持ちにくさ、気持ちの切り替えの難しさ、こだわり行動など、認知面や行動面での特徴を、実際の場面に即して職員から聞き取り、具体的な支援の工夫を提案します。視覚的な支援の活用や、安心できるルーティンづくりなど、子どもが落ち着いて活動に参加できるような方法を一緒に考えます。										
	言語コミュニケーション	言葉の理解や表出の状況、非言語的な伝え方（ジェスチャー、視線、行動など）を丁寧に把握し、子どもが「伝える」「伝わる」経験を積めるよう、日常の関わりの中で使える支援方法を提案します。必要に応じて絵カード、ジェスチャー、キーワードでの支援方法などを紹介します。										
	人間関係社会性	他の子どもとの関わり方、集団の中での立ち位置、大人との信頼関係の築き方など、社会性の発達に関する様子を聞き取り、安心して人と関われる環境づくりを支援します。友達との遊びへの入り方、順番を待つ、気持ちを伝えるなどのスキルに応じた関わり方を一緒に検討し、集団活動への参加を促す工夫を提案します。										
家族支援		家庭での子どもの様子や保護者の思いについて職員から共有を受け、必要に応じて保護者が理解しやすい伝え方や支援の工夫を提案します。保護者が安心して子育てを続けられるよう、保育所・学校との連携が円滑に進むよう支援します。また、支援機関や相談先の情報を必要に応じて案内します。						移行支援		就学・進級・進学などの環境の変化にあたっては、子どもの特性や配慮事項を理解するための橋渡しとして関わります。保育所や学校での様子を聞き取りながら、引き継ぎに必要な情報の整理や、移行先で安心して過ごせるための配慮事項の提案を行います。保護者の不安軽減にも配慮した関わりを心がけます。		
地域支援・地域連携		地域の関係機関との連携を大切に、支援の一貫性が保たれるよう、保育所や学校、相談機関との情報共有に協力します。訪問時には、子どもの支援に関わる関係者の意見を聞き、連携体制の整理や支援の見直しに関する助言を行います。地域での支え合いの仕組みの中で、子どもが安心して育つ環境づくりを支援します。						職員の質の向上		日々の実践の中での気づきや悩みを丁寧に聞き取り、現場の工夫や取り組みを尊重しながら、必要に応じて支援方法や他事例の紹介を行います。職員間で共有しやすい資料の提供や支援に関する考え方の整理を通して、子どもへのよりよい関わりが深まるよう支援します。		
主な行事等		特になし。										